



2017 MFJ全日本ロードレース選手権シリーズ 第7戦 オートポリス スーパー2&4レース

TOHO Racing レースレポート
JSB1000クラス #104 山口 辰也

9月9日(土曜日) 天候：晴れ 路面：ドライ
公式予選／7番手
9月10日(日曜日) 天候：晴れ 路面：ドライ
決勝／6位
開催地：大分県・オートポリス（1周=4.674km）
入場者数：1万4450人（2日間合計）

オートポリス スーパー2&4レースが開催された。今回も4輪のスーパーフォーミュラとの併催で行われ、全日本ロードレース選手権は、JSB1000クラスのみで開催となった。6月の第5戦オートポリスでは、不安定な天候となり、決勝では、マシントラブルと不完全燃焼となったが、今回は、天気にも恵まれた。

初日となった金曜日のART合同走行は、前日の雨の影響で1本目は、セッション中盤までウエットパッチの残るコンディション。セッション後半はドライで走ることができ、2本目は完全にドライコンディションとなった。オートポリスを得意としている山口だが、ニューHonda CBR1000RR SP2では、まだ思うような走りができていない。一歩ずつセットを詰めて行ったが、2本目のセッション終盤にアクシデントが襲う。1コーナーで黄旗が出ていたため、前に現れた遅いマシンを抜かずにいたところ、速度差のあるマシンが急に現れ、山口のハンドルをヒット！ 山口は減速しきっていないところから放り出され、左手小指と左ヒジを痛め、メインカーも大破してしまう。山口は、病院で検査を受け、チームスタッフは、マシンの修復作業に追われてしまう。

土曜日になり、身体の状態は、とりあえず走ることができそうだった。グローブをして、バイクを操作できるかを確認し、公式予選に臨んだ。まずは、修復したバイクの確認を行いながらマシンセットを進めて行く。今回もノックアウト方式が採用されていたが、Q1で全車が走行し、トップ10がQ2に進出し、ポールポジションが争われる。山口は、痛む身体にムチを打ち、セッション終盤に1分49秒790を出し、10番手でQ2に進出。Q2では、1分49秒418までタイムを縮め7番手に着けた。

日曜日にも快晴となり、青空の下、19周でレースは争われた。山口は、3列目から、まずまずのスタートを切るが1コーナーでは、2台にかわされ9番手。オープニングラップの第1ヘアピンで1台、立体交差下で1台をかわし7番手でホームストレートに戻ってくる。トップグループは、見えていたが、前にいるライダーに追い付くのが精一杯という状況だった。レース終盤に、前を走っていたライダーがコースアウトしたためポジションを一つ上げ、前戦に続き6位でチェッカーフラッグを受けた。



JSB1000 ライダー/監督 山口辰也コメント

「金曜日に他車に接触され転倒してしまい、流れが狂ってしまいました。左手小指と左ヒジが痛む中でしたが、メカニックが完璧にマシンを直してくれたので、予選、決勝と問題なく走ることができました。ただ、マシンセットは思うように進められなかったので、今回の経験を生かして、次回の岡山国際は、いいレースができるようにチーム一丸となって全力を尽くします」

チーフメカニック 戸井田剛コメント

「金曜日のアクシデントでメニューを消化しきれなかったことで、思ったよりもマシンセットが進まなかったことと、山口自身の調子も100%でなかったことが前に追い付くことができなかった要因になりました。次回の岡山国際は、チームのホームコースですし、去年は、雨の中、優勝したラウンドなので、事前テストでいい状態にマシンを仕上げ、今シーズン最高のレースができるようにしたいと思っています」

総監督 福間勇二 コメント

「アクシデントにより、セッティングが予定通りに進まなかったですが、その中でライダー、メカニックが頑張ってくれました。次戦はチームのホームコースである岡山大会となります。良いレースとなるよう、これまでのデータを活かし最善を尽くして挑みます」



株式会社 TOHO
TOHO Racing
担当:野口